

ユーザーの課題解決メソッドロジの試み及びプロダクト開発の実践

Introduction スローガン「ユーザーの強い課題を発掘し解決する」の設定

我われはなぜここにいるのか

プロジェクトの始動時にアジャイルチームビルディングの「我われはなぜここにいるのか」というメソッドを活用したワークショップを行い、メンバ同士で経験や学習志向などを話し合いゴールへの意見を集め「ユーザーの強い課題を発掘し解決する」というスローガンを打ち出した。



チームの目的（我われはなぜここにいるのか）

ユーザーの強い課題を発掘し、解決するため

- 価値あるプロダクトとは、「課題の質」が高いものと定義した。
- ユーザーや社会の課題と向き合い、世の中に必要とされるものを作りたい。
- そのために参考図書「起業の科学」の体系立ったプロセスを実践する。

Methods マーケティングメソッドの活用とアジャイル開発の実践

PMF (Product Market Fit)

参考図書「起業の科学」でPMFを実践した。

- Step 1: Idea Verification (アイデアの検証)
- Step 2: Customer Problem Fit (課題の質を上げる)
- Step 3: Problem Solution Fit (ソリューションの検証)

マーケティングメソッド

ユーザーの課題解決にマーケティングメソッドを活用した。

1. リーンキャンバス
2. ペルソナ
3. エンパシーマップ
4. カスタマージャーニーマップ
5. ユーザーインタビュー
6. UXブループリント

アジャイル・スクラム

インクリメンタル開発のために、アジャイル・スクラムを実践した。

1. インセプションデッキ
2. ユーザーストーリーマッピング
3. スプリントプランニング
4. デイリースクラム
5. スプリントレビュー
6. スプリントレトロスペクティブ

開発環境

- クロスプラットフォーム開発: Flutter
- フルスタック開発: Java (Spring Boot)
- フロントエンド開発: Vue.js
- バックエンド開発: Python (Flask)
- クラウド: AWS, Firebase
- デザイン: Figma, Miro
- スキーマ駆動開発: OpenAPI
- CI/CD: GitHub Actions
- E2E自動テスト: Selenium IDE

Results 4つのプロダクト開発とメソッド及びツール活用の学会発表

Kinjiro



輪読会をもっと気軽に



輪読会を開催している団体が抱えている企画・準備の課題を解決する。書籍検索やイベント設定など、開催を支援する様々な機能を開発した。ベータ版をWeb公開し、ユーザーインタビューから改善に取り組んでいる。

kaji-kaji



夫婦喧嘩の最大の要因は家事分担。対話を促し良好なパートナー関係を築く。MVPリリースを行い、パートナーとの対話の場作りの創出に成功した。今後は使用感の向上とユーザーへの認知を進める。

IT資格サブリ



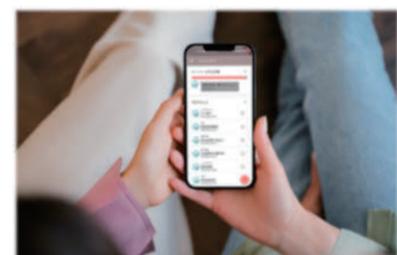
IT企業の中間管理職が抱える、人材育成の課題を解決する。部下のIT資格学習の進捗を短時間で把握する機能を開発した。ユーザーインタビューからユーザーの強い課題を発掘できた。

日本ソフトウェア科学会 第39回大会 発表



「プロジェクト演習での協働作業のためのツール及びメソッドの試み」

ファミタス



家庭が抱える家事負担偏在の課題を試み、プロトタイプ開発とユーザーインタビューを行った。課題解決には対話の場作りが重要と判断し「kaji-kaji」の開発に結び付いた。

Conclusion ユーザーの課題解決とプロダクト開発までのノウハウの獲得

アイデアの考案から、マーケティングメソッドを活用した仮説検証を経て、プロダクト開発までの一通りを実践したことで、当PTメンバーは情報アーキテクトとして造詣を深めることができた。今後もプロダクトが市場に受け入れられるか挑戦を続ける。